| 科目名 | 比較文学特講 | 担当者 | アキクサ　シュンイチロウ<br>秋草　俊一郎 | 期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

【科目概要】

| | |
|---|---|
| 目　的 | 21 世紀の現在，国外で活躍する作家や，旧植民地にルーツがある作家が増えてきている。そのような作家の書く文学を指して，国文学を内包するものとして「日本語文学」と呼ぶこともある。そのような作家の言語に対する態度を記したエッセイや，その作品を実際に読むことで，母語を相対化する視点が文学作品にどのような影響をあたえるのか考えてみたい。そのような文学作品を熟読することは，当然ながら，わが国の「国語文化」を再考する機会にもなるだろう。同時に，現代における「国語」あるいは「国文学」ということば・概念の持つ意味を再考したい。文学以外が専門の受講生も歓迎する。<br>以上の目的を達成することにより，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに，論理的・批判的思考能力をはじめ，問題発見・解決力，コミュニケーション能力，挑戦力，省察力を身につけることを目指す。 |
| 到達目標 | 【一般目標（GIO)】<br>現在，文学を学ぶ上で重要な概念であるバイリンガリズムやポストコロニアリズムについて理解し，それが国語を構成する文学表現としてどう使われるのか知ること。またリポートの文章表現も，内容にふさわしい高いレベルを達成すること。<br>【行動目標（SBOs)】<br>論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。文芸作品を精読し，自分のことばで分析できるようになること。 |
| 学修方略<br>（方法） | 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】<br>インタラクティヴなリポート提出システム manaba を用いる。<br>【学修方略（LS)】<br>自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。リポート作成にあたっては，草稿から最終稿に至るまで，履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。<br>【学修時間】<br>各リポート課題の準備から完成までに，以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。<br>教材の学修：15 時間　　リポート執筆：15 時間<br>リポート推敲（教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15 時間 |
| スケジュール | 前期：6 月 10 日までに教材 1 のリポート課題(1)初稿を提出。<br>7 月 10 日までに教材 1 のリポート課題(1)最終稿を提出。<br>8 月 10 日までに教材 1 のリポート課題(2)初稿を提出。<br>前期提出期限までに教材 1 のリポート課題(2)最終稿を提出。<br>後期：10 月 10 日までに教材 2 のリポート課題(1)初稿を提出。<br>11 月 10 日までに教材 2 のリポート課題(1)最終稿を提出。<br>12 月 10 日までに教材 2 のリポート課題(2)初稿を提出。<br>後期提出期限までに教材 2 のリポート課題(2)最終稿を提出。 |

| 成績評価 | 種　別 | 割合 | 評価基準 |
|---|---|---|---|
| | リポート | 80 % | 教材を精読理解し，課題に応える内容となっているか，また，学術論文の体裁が整っているか評価する。 |
| | 観察記録 | 20 % | メール，manaba 等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。 |

| | |
|---|---|
| 履修者への要望 | リポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し，可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。引用については盗用にならないよう十分注意してほしい。manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど，積極的な参加を求める。ピアレヴューは参加者の人数を見て実施する。 |

【リポート課題】

| 基 本 教 材 1 | |
|---|---|
| 教材の概要 | 多和田葉子<br>著者名： 『エクソフォニー――母語の外へ出る旅』(岩波現代文庫, 2012),<br>教材名： ISBN 978-4006022112 860 円＋税<br>『かかとを失くして 三人関係 文字移植』(講談社文芸文庫, 2014),<br>ISBN 978-4062902274 1500 円＋税 |
| | 多和田葉子は、ドイツで活躍する日本語・ドイツ語のバイリンガル作家であって，国際的な文学賞を数々受賞し，ノーベル賞に近いとも言われている。その代表的な評論と作品である。 |
| 参考図書 | 多和田葉子『言葉と歩く日記』（岩波新書, 2013）, ISBN 978-4004314653 760 円＋税 |
| 履修上のポイント | 「エクソフォニー」という多和田葉子による造語が意味する概念をつかんだうえで，その作品を読んでみてほしい。 |
| リポート課題 1 | 『エクソフォニー』を読んで，そこに書かれている著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。(2000 字以上)<br>**留意点**：単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。 |
| リポート課題 2 | 『かかとを失くして 三人関係 文字移植』に収められた短編のうち，どれか一作品を選び，作品について自由に論じなさい（引用・注・参考文献をのぞいて 3500 字以上，上限なし）。<br>**留意点**：①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低二つ以上あげ，自説を説得的なものにすること，②選んだ作品からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。 |

| 基 本 教 材 2 | |
|---|---|
| 教材の概要 | 温又柔<br>著者名：<br>教材名： 『台湾生まれ 日本語育ち』(白水社, 2015), ISBN 978-4560084793 1,900 円+税<br>『来福の家』(白水社, 2016), ISBN 978-4560072080 1,400 円+税 |
| | 温又柔は 1980 年生まれの比較的若い台湾出身の作家（母語は日本語）の作家である。 |
| 参考図書 | リービ英雄『日本語を書く部屋』(岩波書店, 2011), ISBN 978-4006021917 860 円＋税 |
| 履修上のポイント | 「台湾生まれ 日本語育ち」という著者のアイデンティティはどこにあるのか，場合によってはアメリカ出身の日本語作家リービ英雄とも比較しながら考えてみてほしい。 |
| リポート課題 1 | 『台湾生まれ 日本語育ち』を読んで，著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。(2500 字以上)<br>**留意点**：単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。また前期の多和田の態度とくらべるなど工夫してほしい。 |
| リポート課題 2 | 『来福の家』を読み，作品について論じなさい。その際，自分で現代の「移民文学」を一作品選び（ただし温・多和田の作品以外），その作品の内容を紹介し，温の作品と比較しながら論じること。（引用・参考文献・注をのぞいて 5000 字以上）。<br>**留意点**：①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低三つ以上あげ，自説を説得的なものにすること，②『来福の家』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。 |

基本教材 1

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 2 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 3 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 4 回 | リポート課題 1：初稿の作成 |
| 第 5 回 | リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成 |
| 第 6 回 | リポート課題 1：ピア・レスポンス |
| 第 7 回 | リポート課題 1：最終稿の作成 |
| 第 8 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 9 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 10 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 11 回 | 教材の学修：基本教材 1 の学修 |
| 第 12 回 | リポート課題 2：初稿の作成 |
| 第 13 回 | リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成 |
| 第 14 回 | リポート課題 2：ピア・レスポンス |
| 第 15 回 | リポート課題 2：最終稿の作成 |

基本教材 2

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 2 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 3 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 4 回 | リポート課題 1：初稿の作成 |
| 第 5 回 | リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成 |
| 第 6 回 | リポート課題 1：ピア・レスポンス |
| 第 7 回 | リポート課題 1：最終稿の作成 |
| 第 8 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 9 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 10 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 11 回 | 教材の学修：基本教材 2 の学修 |
| 第 12 回 | リポート課題 2：初稿の作成 |
| 第 13 回 | リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成 |
| 第 14 回 | リポート課題 2：ピア・レスポンス |
| 第 15 回 | リポート課題 2：最終稿の作成 |